

イベントのご報告

図書館利用講座

～図書館を上手に活用しよう！～

6月25日(金)午後2時から午後3時

日頃から問い合わせの多い図書館ホームページの使い方。今回は、そのホームページを使いこなしていただけるように講座を開きました。

資料検索・予約・ブックリストや新機能の予約繰下げ期間登録と未返却お知らせメールの使い方等、タブレット端末を実際に操作していただきながら一つ一つ説明致しました。

短い時間でしたが、様々な質問が飛び出すなど、充実した講座となりました。



今回、初めてタブレット端末を使用しての講座となりました！



新所沢分館マスコットキャラクター
あかりちゃん

読むトコ 第10巻第2号

編集・発行：所沢市立所沢図書館新所沢分館

発行日：2021年8月

〒359-1111 所沢市緑町1-8-3 ☎04-2929-1905

開館時間

火曜から金曜 9時半～21時

(緊急事態宣言中は20時までの開館となります)

土日祝日 9時半～17時

休館日 毎週月曜日・月の最終水曜日

指定管理者 株式会社ヴィアックス

編集後記

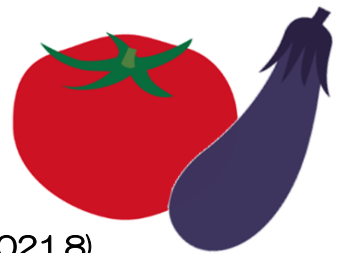
マスク着用で迎える2回目の夏、水分補給を行い、熱中症に充分注意して過ごしてください。図書館も引き続き感染症対策に努めてまいります。

遠出の難しい状況が続いておりますので図書館で本を借りて長編ものを読んだり気になることを調べたりしてみたいはかがでしょうか。わからないことがあればお気軽にスタッフにお声がけください。(W・S)

所沢市立所沢図書館新所沢分館 図書館だより



読むトコ



第10巻 第2号 (2021.8)

文学賞について



毎年1月と7月の2回、芥川賞と直木賞の発表が行われます。今年7月の芥川賞には『貝に続く場所にて』(石沢麻衣/著 講談社)と『彼岸花が咲く島』(李琴峰/著 文藝春秋)、直木賞には『テスカトリポカ』(佐藤究/著 KADOKAWA)と『星落ちて、なお』(澤田瞳子/著 文藝春秋)が選ばれました。

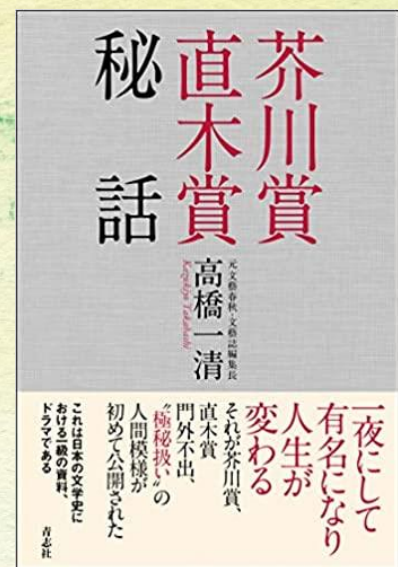
芥川賞や直木賞の他にも日本、世界には様々な文学賞があります。読書の秋がすぐそこまで来ているのでこの機会に文学賞について書かれた本や文学賞を受賞した作品を読んでみてはいかがでしょうか。

ここでは2つの文学賞に関わる本を紹介します。



『世界の8大文学賞』
都甲幸治/著
中村和恵/著 他
立東舎

日本で有名な賞は前述した芥川賞と直木賞です。この2つの賞をはじめ、他にも世界で有名な文学賞を複数の著者が解説しています。



『芥川賞直木賞秘話』
高橋一清/著 青志社

今までにたくさんの有名な作家がこの2つの賞を受賞しています。どのようにしてこの賞が決定するのか、どのようなドラマがあるのか少しのぞいてみませんか。

新所階段 Gallery

6月から新所沢分館を出た踊り場、階段スペースにて隔月でテーマを変えて企画展示をおこなっています。8月より新所沢分館10周年記念企画「しんとこのあゆみ」の展示をおこないます。これまでのイベントや館内で掲示した展示企画のポップなど、なつかしい思い出を展示します。初めて見る方も見たことある！という方も楽しめる内容となっています。みなさんから募集したコメントも展示します。ぜひ見に来てください。



季節のおすすめ本紹介



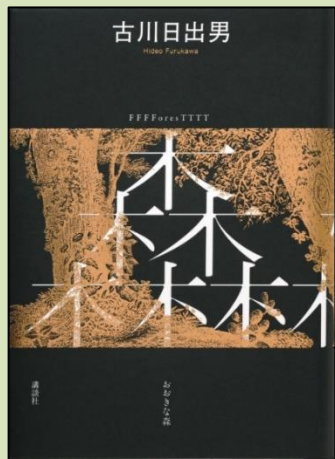
『きのうの影踏み』辻村深月 / 著
KADOKAWA(913.6/ツ)



長編小説のイメージが強い作者のホラー短篇集。思わず身の毛がよだつような怖いおはなし多数です。蒸し暑い夏を吹き飛ばすような人間の怖さを味わってみませんか。文庫本の所蔵もあります。



『おおきな森』古川日出男 / 著
講談社(913.6/フ)



一瞬「森」に見えますが、よく見ると「木」がたくさん。単行本なのに893ページとかなりインパクトのある分厚さの超大作。秋の夜長にぜひ挑戦してみたいかがでしょうか。

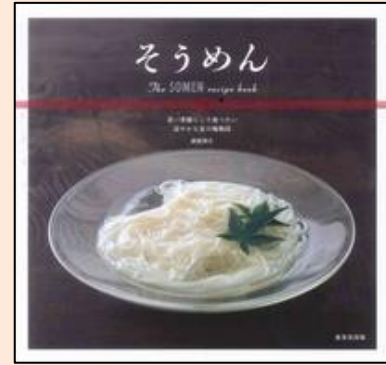
『世界でいちばん素敵な月の教室』浦智史 / 監修
三才ブックス(446/セ)



旧暦の8月15日は十五夜です。秋の収穫をお祝いし月の神様にお祈りします。十五夜を前に月について調べたいという月初心者の方にはこの本がおすすめです。科学的なことやことわざ、歴史についてなどいろいろな分野から月のことを教えてくれます。

『そうめん』満留邦子 / 著
成美堂出版(596.38/ミ)

夏と言えば…そう、そうめん！ですが、ただ茹でるだけでバリエーションが少ないと思っている方にオススメの一冊。全国のご当地そうめんなど、茹でるだけでは終わらないレシピが満載です。



平泉は、岩手県にある「中尊寺」や「毛越寺」、「観自在王院跡」「無量光院跡」「金鶏山」などが「仏国土（浄土）」を表す建築、庭園及び考古学的遺跡群として世界文化遺産に登録されました。

世界遺産とは、一九六〇年代、エジプトのナイル川にアスワンハイダムの建築計画が持ち上がったことよって水没の危機にあったヌビア遺跡を救うためにユネスコがキャンペーンを

今年、新所沢分館は一〇周年を迎えます。そこで、今号から三回にわたって一〇年前の出来事を紹介いたします。題して「あの頃の記憶」。第一回のテーマは、「世界遺産」です。

今から一〇年前の二〇一一年、日本の小笠原諸島と平泉が世界遺産に登録されました。

小笠原諸島とは、東京から南に約一〇〇〇キロ離れた太平洋上に浮かぶ島々です。広大な海に囲まれた島の中で独自に進化した生物が多く生息し、「東洋のガラパゴス」と呼ばれています。その豊かな自然と文化が認められ、世界自然遺産として登録されました。

あの頃の記憶

第一回 『世界遺産』

行ったことが始まりです。それに賛同した多くの国々の協力によって遺跡は無事安全なところに移築されました。そして、そのことが、一九七二年の「世界遺産条約」の採択へと繋がり、それ以来、人類共通の遺産として文化や自然を守り、未来へと繋げていくための取り組みが世界中で行われています。

今年の五月にはユネスコの諮問機関が、奄美大島と徳之島、沖縄県島北部と西表島の世界遺産への登録を勧告したと発表しました。

世界遺産を守るといふことは、昨今話題の「SDGs」にも繋がることだと思います。まずは、本を通して「知る」ことから始めてみるのも良いですね。

参考文獻
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟『世界遺産活動・未来遺産活動』
<https://www.unesco.or.jp/activities/isan/>
『知っておきたい！日本の「世界遺産」がわかる本』（2020年）世界遺産を学ぶ会 / 著 メイツユニバーサルコンテンツ



1



2



3

- 『絵本のようにめぐる世界遺産の物語』村山秀太郎 / 監修 本田陽子 / 監修 昭文社 (709/エ)
- 『絵本のようにめぐる世界遺産の物語 地球の記憶編』村山秀太郎 / 監修 本田陽子 / 監修 昭文社 (709/エ)
- 『絵本のようにめぐる世界遺産の物語 色彩の魔術編』村山秀太郎 / 監修 本田陽子 / 監修 昭文社 (709/エ)

昭文社が発行している「絵本のようにめぐる世界遺産の物語」シリーズ。写真がとても綺麗で、見ているだけでワクワクしてきます。3冊ともオススメです。

